



Inabeな人々

GCI 連動企画

いなべで自らの暮らしを
生み出す人々を
紹介します。



出口省吾さん

(いなべ自然楽校(イナスク))

「いなべ自然楽校(Inabe nature school。以下通称「イナスク」)はいなべの山(森や林)を活動拠点とする市民活動団体だ。2018年5月から、山や木に関わるワークショップ、学習支援、環境保全などを定期的に行っている。メンバーの「木材で物を作ってみたい」「ストロー用のまきを自分で切り出してみたい」などの希望を叶えるとともに、まちを支える担い手となっている。

木からひろがる活動

イナスクの代表出口省吾さんは「木には無駄がない」と言う。イナスクの活動の一つが山の間伐だ。人工林を間引くことで、災害に強い健全な山をつくりだす。間伐した木は、材木に加工しベンチやテーブルなどの家具を製作。端切れはペンダントや置物などに。加工・製作時に出た木くずは庭にまくことで、雑草が生えてなくなる。間伐材を丸ごと使い、残すところは一切ない。

いなべの木をもっと使い、持続可能なまちづくりを

「子どものころから、なぜいなべの木を使わないのか疑問だった」と出口

さんは言う。地域は山に囲まれ、たくさん木があるのに、家を建てる時輸入木材を使うことが不思議だった。その疑問が、いなべの山、木を通した活動へつながった。

「SDGs達成に貢献する地域おこしを」という考えのもと、イナスクを立ち上げた。しかし、SDGsの理念が国連で採択される前から、出口さんには「いなべの木」をテーマに住み続けられるまちを目指す気持ちがあった。世界で掲げられるより先に、学校、地域ぐるみの持続可能なまちづくりを始めていた、いわば先駆者だ。

自分も周りも「楽しい」からはじめる

イナスクの正式名称は「いなべ自然楽校」。学校ではなく「楽」校だ。

安全に整備された野外活動基地で遊んだり、キノコの菌打ちをしたりする子どもたちからは、笑顔があふれている。

山で思いきり体を動かすことも、モノをつくることも、誰かと一緒にとっと楽しい。その楽しみと共に、社会や環境、経済活動への気づき・学びを提供するのが、イナスクの特徴だ。今後、どんな楽しい学びの時間が生まれるか待たしい。



1. イナスクの皆さん 2. 活動拠点を示す看板(北勢町治田) 3. 間伐をしっかりと木の根がはり、災害に強い山になる 4. イナスクがまきを提供し、「いなべ防災ボランティアの会」「日本森の十字社」などと防災活動を実施



生活情報
「まいめる」



携帯用
「モバイルサイト」

救急医療情報

- 三重県救急医療情報センター ☎ 059-229-1199
- いなべ医師会(在宅当番医) ☎ <http://inabe-med.or.jp/>
- 医療ネットみえ ☎ <https://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

人口情報(令和3年4月1日現在)

総人口: 45,250 (-102)
世帯: 18,758 (+15)
男: 23,181 (-21) 女: 22,069 (-81)



いなべ市情報誌 Link6 月号(vol.210) 令和3年5月1日発行
発行/いなべ市 編集/企画部 広報秘書課 〒511-0498 三重県いなべ市北勢町阿下喜31
☎ 0594-86-7740 ☎ 0594-86-7857 ☎ <https://www.city.inabe.mie.jp/>